

柏崎体育行政外史

柏崎体育團副團長
月橋

<p>体育に関する仕事をして いるから体育行政であると いふ。そういう意味では 柏崎の体育行政は、市に体 育主事を置くことによつて スタートしたといわねばな らない。</p>
<p>柏崎市体育主事ヲ命ズ 月俸金八拾円給与 昭和十八年七月十五日 柏崎市</p>
<p>これが、その辞令である。 昭和十五年七月一日柏崎市 は市政をし、教育課を置 き、そこが体育を担当して いたのである。私が市役所 入りをした時は三井田正氏 が他の仕事と共に体育の仕 事をしていくのである。</p>
<p>この体育主事制の設置に 最も熱心で、当時の市会議員 であり、柏崎体育団の團長でも あつた洲崎義郎氏である。又洲崎 氏の意見に共鳴して色々活動さ れた方に坂田四郎吉氏、本 間正平氏(当時の教育課長) がおられたのである。</p>
<p>私は高田師範学校の本科 二部を卒業して、郷里の柏 崎小学校の教員を六ヵ年つ とめ、感ずる所あり母校専 攻科にかえり、それを卒業 後、新潟師範学校附属小学 校、三島郡脇野町小学校を へて刈羽村刈羽国民学校の 教頭を昭和十六年四月以来 していたのである。所が昭 和十七年四月、新潟時代大 の手により検査されたので ある。六月二十九日許され て帰ったものの憤満やる方 なく、直ちに辞表を出し、 疑を受け、当時の特高警察 のやり方が治安維持法に触 れたのである。漸くにして 月を費し、漸くにして愁 眉を開いたのである。当時 の市役所の給料は非常に低 く、本間正平氏の非常な御 努力により私の採用は破格</p>

事で、主に増し、主に事を体感する。例えは戦争責任をとる中栗林義治庶務課長、秋崎義郎、吉浦栄一、酒井一徳、渡辺三十郎の各氏は市会へ全然出席されない、その裏で、主に議会の一部等を批判する声明書を発表して退職するなどなかなかにぎやかなものがあった。この三課長の退職の余波をかぶつたのが私である。

昭和二十一年二月十三日に市長になられた三井田虎一郎氏から、就任早々私は呼び出しがかかって来た。(初代市長原吉郎氏が二十九年十一月末辞職されてから、助役の松村正吉氏が市長代理をやっていた)三井田市長の話は、私が萩野秀雄氏の後任として厚生課長になれるとしの事であった。私は直ちにお断りした、それが断わる理由は何かというおたずねなので、次の理由をあげたわけである。

(1) 私は課長になる人材ではない。

(2) 私は柏崎の体育の盛りあげに及ばずながら全力をあげているつもりであり、又今後もそのつもりである。私は体育を大いにやっていきたいので他の事は考えていない。厚生課長は他にいくらも人材があると思うから是非他を考えてほしい。

所が三井田市長はこう言ふのである。

(1) 人材であるとかないとかは私が見る事である。

(2) 君があくまでも体育をやつていきたいというのなら教育課から体育を離さないなどという馬鹿もあるまい。

まさか自分が見られるなどという馬鹿もあるまい。

君があくまでも体育をやつていきたいというのなら教育課から体育を離し厚生課に所管させる。

体育を厚生課に移すという

かは見知れない。三井田市長はなお極力固辞する私を説得し、どうしても厚生課長になれとすすめられる。致し方なくなった私は知己友人と相談して御返事をすると、その後数人の友人、先輩等の意見をきくと、皆が面白いじゃないか、やつてみると、とうとうな意見ばかりで、やつてはならないというのがない。その中自分も、よし一つやって見るか、というような気持になると、返事をしたのである。私が厚生課長の命令を受けたのは昭和二十一年二月十八日である。体育行政はこの時教諭課所管を離れた。私はが兼ねるという事に厚生課に移った後は体育主任は、当時の厚生課長の軍政部を知らねばならない。新潟県内の行政に対する占領政策としての米軍の機構は、新潟市の公会堂に米軍の軍政部がありそこが大目付役をやつていたのである。中央行政は別として、末端の我々の所で軍政部の一番やかましいのが、民生行政(社会福祉)と衛生行政であった。その二方面を受け持つ私は当時の市の課長の中では、軍政部と接する事が最も多く、ある時軍政部の、ピーター・G・クルース厚生課長と大きな喧嘩をやつた事まである。こんな事情であるから、体育の仕事を私だけでやる事などとても出来ない事情にあつた。そこで、体育團に書記を入れ、その者に私の補助をさせようとしたのである。なかなか適任が見当らず、漸くにしてこれが実現したのが昭和二十四年六月、当時の店に勤務して

大にやりこの予算は市から出された。又体育研究会の予算は市から出された。又行なわれたのである。由来日本では二十一年十二月總司会部の体育担当官主任官ノ一人、ビル少佐を招いてアメリカ合衆国体育の事を知り、それと並んで日本のあるべき体育を三橋喜久雄先生（三橋体育研究所所長）に聞こうとした。市と体育団外の主催の学校体育研究会は、突然の雪の事もあり、今はお印象に残っている。更に特記しておかねばならないのは、米峰体育研究所長（酒井榮等の有為の人会の協力である。この会は学校の先生の体育研究会体であるが、本間吉隆、阿部芳郎が中心となり、主として柏崎、刈羽の小、中学校の先生が集まつたものである。この会は独自で研究会を営み、大会を持つと共に積極的に市や体育団の行事に協力してくれたので、この会のおかげでやり得た部曲もなかなか多くあり大きいに感謝している所である。このようにして社会混融の中を柏崎の体育行政は突き進んで来たのであるが、体育施設も体育団の手を離れて市へ移り、市独自でつくる体育施設も小規模ながら漸次出来はじめたのである。と、体育行事の主体性も市へ移り、市独自でつくる生活保護法が一部改正となつていいのはやむを得ない事といわねばならなかつた。

(3) 体育は教育の二大問題がある。員会はこれに抵抗する。かかる体方針が行なわるる。近視眼的で、その考え方で体育を見ると、考え方の方は余りもこれを改革してもそれを反省阻止せしめを持つてしない。否むしろこれに危険さえある。

の四月
あり、崎嶋義郎
現職の
長に当
けいも
者であ
意見を
必ずや
自の形
ない状
。しか
行する
から島
教授と
六月三
たので
付で私
（当时
）とり
て、適當
であつ
う年は
施行さ
委員会
体育は
考えら
いて疑
った。教
育は教
教育委
し、こ
のを欠
きもの
育行政
時は重

(5) あらゆる教育委員会併促進法の施行され、全国に普及するのである。このことは次の通りである。

合が町
柏併施村 とき一た林
あさ日のを 卸もるかにに年も以二つて今体島
九つ体はす六ま後十たも井育掛
りいい当なわう多さ文終し意長な送すこく会でまかあ
をるま時りかて少ら離戦文見の事付るとわであ市発つ
はせし

(柏崎體育史資料)

柏崎市体育行政年譜図表

衛生体育課の課長は保健課の課長今井哲夫氏がそのままなっていたのであるが、その後市役所内鄙に公金費消事件がおきそれが空口となつて課長の交てが起きるに至つた。社会福祉事務所勤務のある職員が公益質舎の公金二百数十万円を使いこんだのが三十二年末に発覚し、彼が私の管轄の部下であるとの理由で私が一部の責任を追求されたのである。詳く書くことは本文の趣旨ではないので省略するが、その問題が、政治問題となり、二転、三転して、当時総務課長であった私が、衛生体育課長の今井哲夫氏とそのボストをかわる事となつたのである。これを機として秘書課をつくるとか、企画課をつくるとかいろいろ噂見が強く出たが、私はあくまでもそのような課をつく

「体育というものについて、ズブの素人の私が教育委員会に新設の体育課長補佐を任命、たたとまどついてるというのが現状です。」「健康な身体にこそ健全な精神が宿る」という言葉は人生哲学の真理をついたもので、これこそ人づくりの要諦ではないかと思います。その意味で、学校保健をも含めわざわざこの上に立派な仕事を誠に光榮でありりますが、又責任の重さを痛感しております。幸い外山説長はもとより柳、佐藤両君がこの道のベテランであります。その上に柏崎体育館を今日の輝盛に導いた偉大な多くの先輩諸兄がご思つておられます。私も早くお役に立ちたいと念願しております。どうぞよろしくご指導ご鞭撻の程を

称健生体育課が昭和四十年三月三十一日まで続、市

教育委員会に移った体育は「体育課」となり初代講師長に外山三郎氏（村松高校の体育教師）を迎えてスタートを切つたのである。外山君は、柏崎中学時代の私の同級生、共に島藤藤次郎氏の教児であり、外山君の市役所入りが島掛氏と同じく村松高校からであるのも奇縁といふ外れない。色々の経験をたどつて教育委員会に所管された体育である。幾多の先輩の功績を更にあげ、伝統を汚がさないよう、大いに努力されん事を望み稿を終る。（四月四日午前）

二面より

るべきでなく、スンナリと
私が父替すべきのうら

体育の理想郷真意義実現へ

(上) 坂田体育研究所

一、スポーツの都は今は昔の夢
今から思えば柏崎の体育は、大正の半ばから昭和にまたがって終戦前までが花だつた。それは、よき指導者が捕っていたからだつた。

二、小学校体育にも、中等学校(今の高等学校)体育にも、そして社会体育にも、「ガーン」とした中心的存在があつて、それが全般を練導し、鞭撻し、盛りあげ役であり、研究と実践の先達をしていたからだつた。

三、従つて体育界は常にハラツとし、各種大会には、練導などと優勝もし、気勢を揚げたものであつた。況んやグラウンドの竣工後は、勿論市民体育のためにはそれがつとに利用され、全県のがつと競技界も、それが競技場界も、それが体操をもたらすものであつた。

四、今日から顧みれば、あの噴飯の戦時訓練時代、体育暗黒時代にもわが柏崎は毅然として体育の本質を守り徹して来たのであつたが、それも今は全く昔の夢物語りとなつてしまつた。

二、終戦後の起ち上り

あの昭和二十年八月には

残念ながら遂に降伏終戦の

屈辱をなめざされ、しばし

し脱状態に陥らざるを得

なかつたが、涙の中から新

日本建設を目指して起ち上

るのだった。

而して一方、或いはカーネ

ルデイーム博士を迎へ、全

国都市体育研究会を開く

県青年総合大会を開く

産業に、或いは精銳主義、

ど一番大切な生命の食物の

岩から見ると、チッとでもこ

れで外山氏は小学生時代から思えば、柏崎体育も落

ちつく所に落ち着いたわけ

であり、課長には外山三郎

が着任し、体育方面は強

化された形とはなつた。

外山氏は小学生時代から

行動範囲は、農山漁各地区

相手は七万市民であること

を念頭において奉仕され、

第三には体育団であるが

とにかく新人を起用せんとする

ために如何に生かすべきか

が、その写真がその写真

だけ、新聞社がその写真

だけ、新華温泉でスキーヤー

をどうしてものせたいとい

うので貸してやつたら、大

事な所だけパンノの型に白

くつぶしてね」

といつただけのコトでした

ナゲキのビエロ

が、この設備を利用するにし

て、他から選手を迎へ、或

いは大会を誘致し、外貨獲

得という現ナマ的スポーツ

の声——栄養学者や医者は

も流されているので、島や

岩が河の中に浮いていま

る。しかしながら生命の生き

る。しかしながら生命の生き</